

第2章 台湾

—香港, マカオ, 中国との消費パターンの比較—

明石 光一郎

1. はじめに

台湾の1人当たりコメ消費量は著しく減少している。しかしこれは台湾に限ったものではない。日本でも1人当たりコメ消費量はいまだに減少を続けている。また、香港、マカオは台湾以上に1人当たりコメ消費量の減少が著しい。台湾、香港、マカオでは1人当たりコメ消費量の減少とともに1人当たり畜産物の消費量が増加している。本稿では、台湾を日本、香港、マカオ、中国と比較して、各国の食生活の変化を分析する。

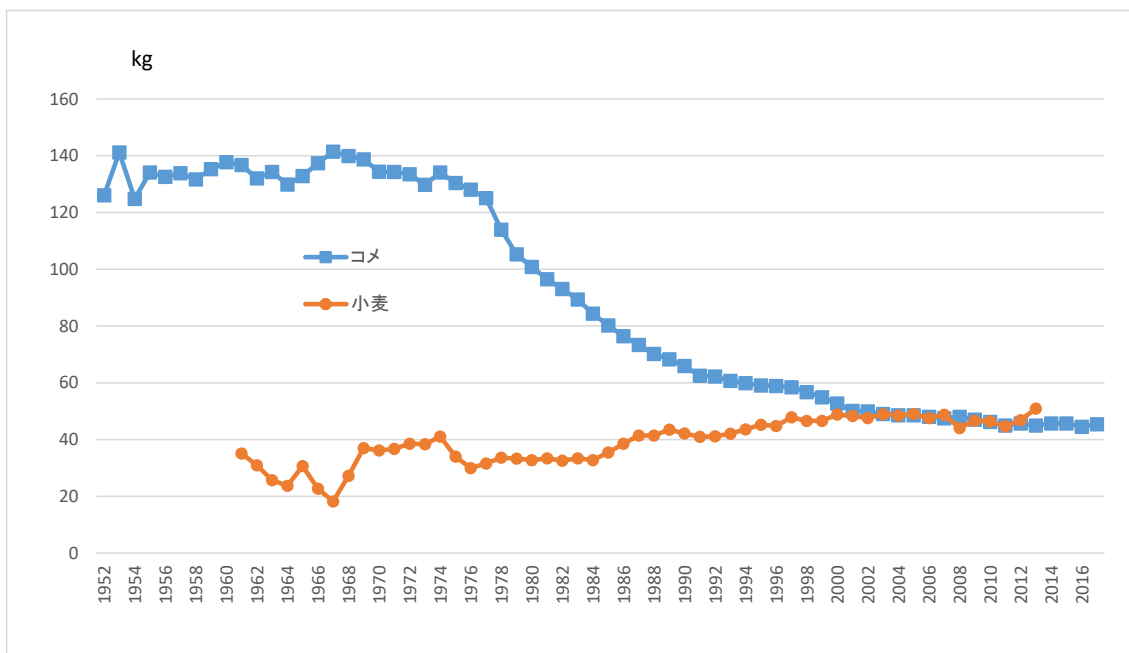
2. 台湾, 日本の消費パターンの違い

まず台湾の食料消費パターンは日本とかなり異なることを示す。

第1図, 第2図はそれぞれ台湾の1人当たりコメ・小麦消費量と1人当たり肉消費量の動向である。台湾の1人当たりコメ消費量は1970年代後半の120kg台から急激な減少が始まり, 1989年には70kgを切り, 2000年以降は40kg台で推移している。コメが減少する一方で小麦消費量は増加し, 2000年以降はコメとほぼ同じ水準になっている。他方, 肉の消費量はほぼ一貫して増加している。まず豚肉の消費量が増加した。豚肉は1991年に40kgを突破し, 2008年まで40kg台で推移している。近年も, ほぼ40kg程度である。豚肉を追いかける形で鶏肉の消費量が増加した。1人当たり鶏肉消費量は現在30~35kg程度で安定的に推移している。一方, 豚肉と鶏肉の消費量と比較すると, 牛肉消費量は少ない。

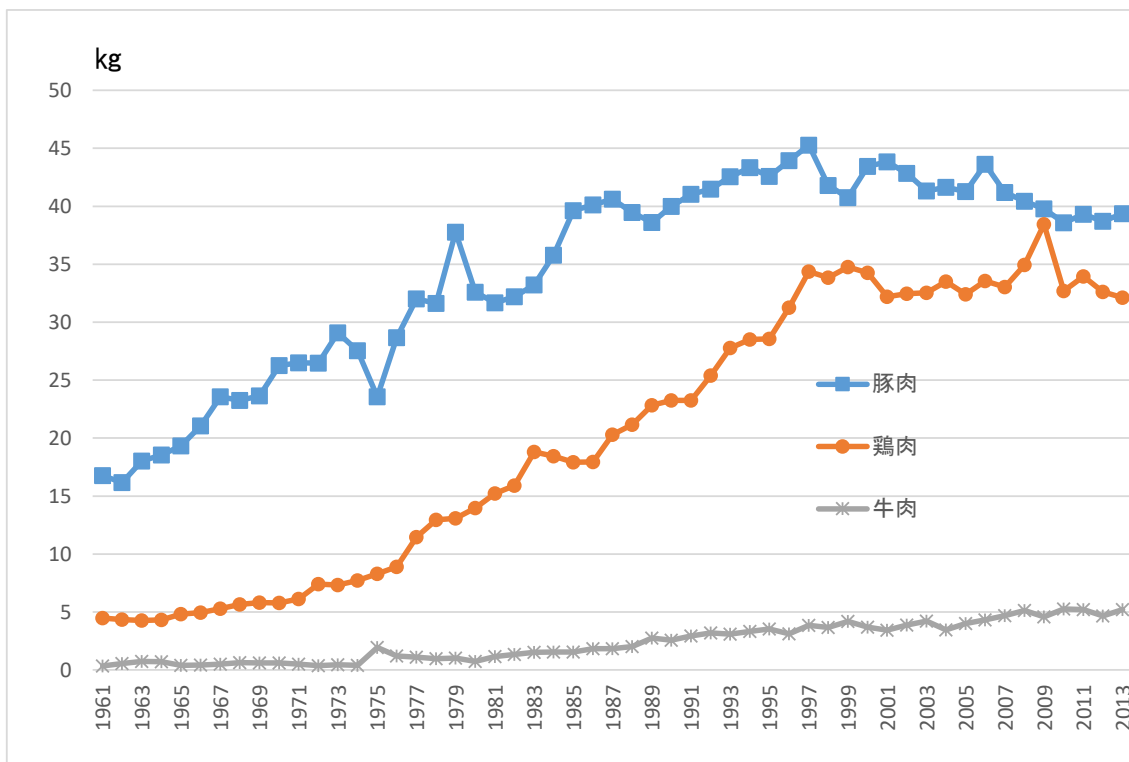
つぎに日本の状況を見る(第3図)。日本の1人当たりコメ消費量は対象期間において減少し続けている。しかし1人当たり消費量は60kg程度にとどまっており, 減少は台湾ほど急激ではない。小麦の1人当たり消費量は40kg程度で安定している。また第4図より, 日本の1人当たり肉消費量はゆっくりと増加している。豚肉と鶏肉が多く牛肉が少ない台湾と比べると, 豚肉, 鶏肉, 牛肉が, 比較的バランスよく増加している。しかし, 3者を合計しても50kgに満たない。

以上より, 台湾, 日本ともにコメの消費量が減り, それを肉が代替しているが, その消費パターンはかなり異なるといえよう。



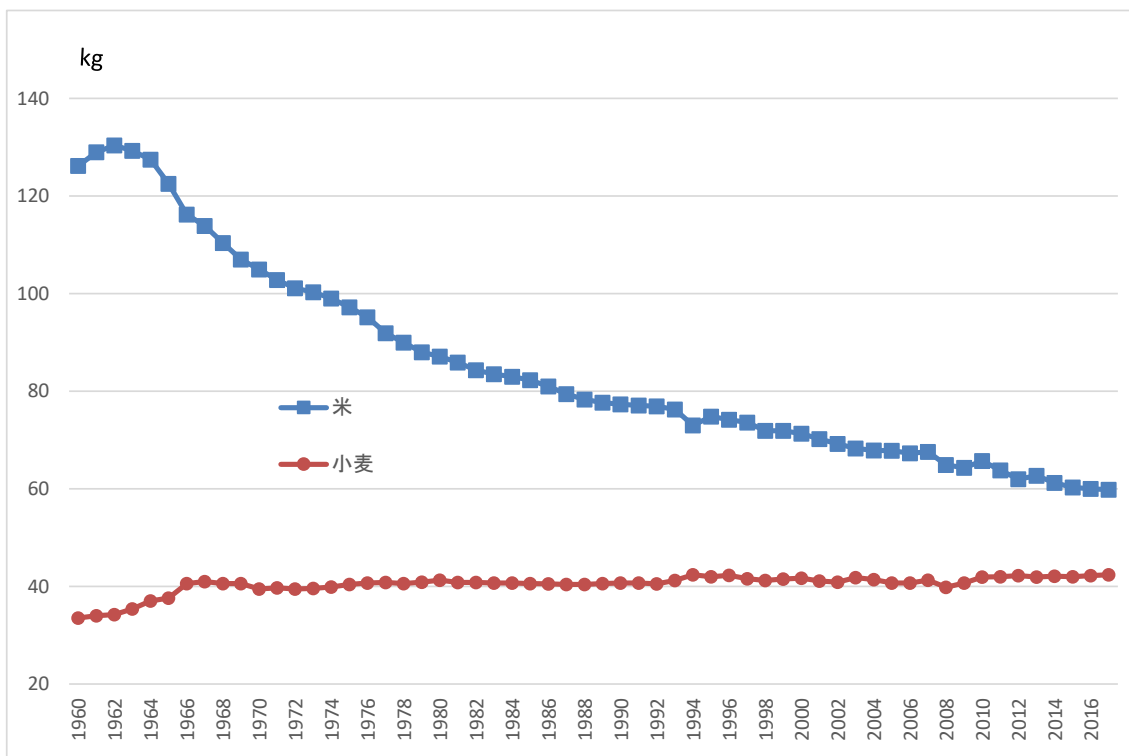
第1図 台湾の1人当たりコメ・小麦消費量の動向

資料：コメは行政院農業委員会『農業統計要覧』，小麦は「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。



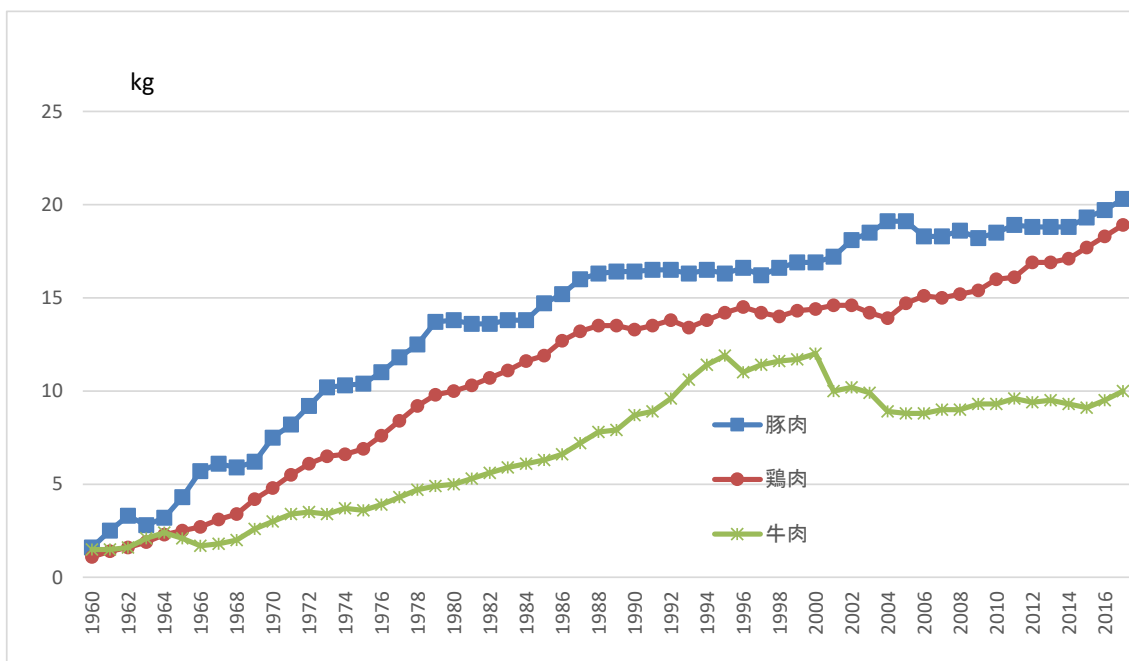
第2図 台湾の1人当たり肉消費量の動向

資料：「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。



第3図 日本における1人当たりコメ・小麦消費量の動向

資料：農林水産省「食料需給表（2017年度）」。

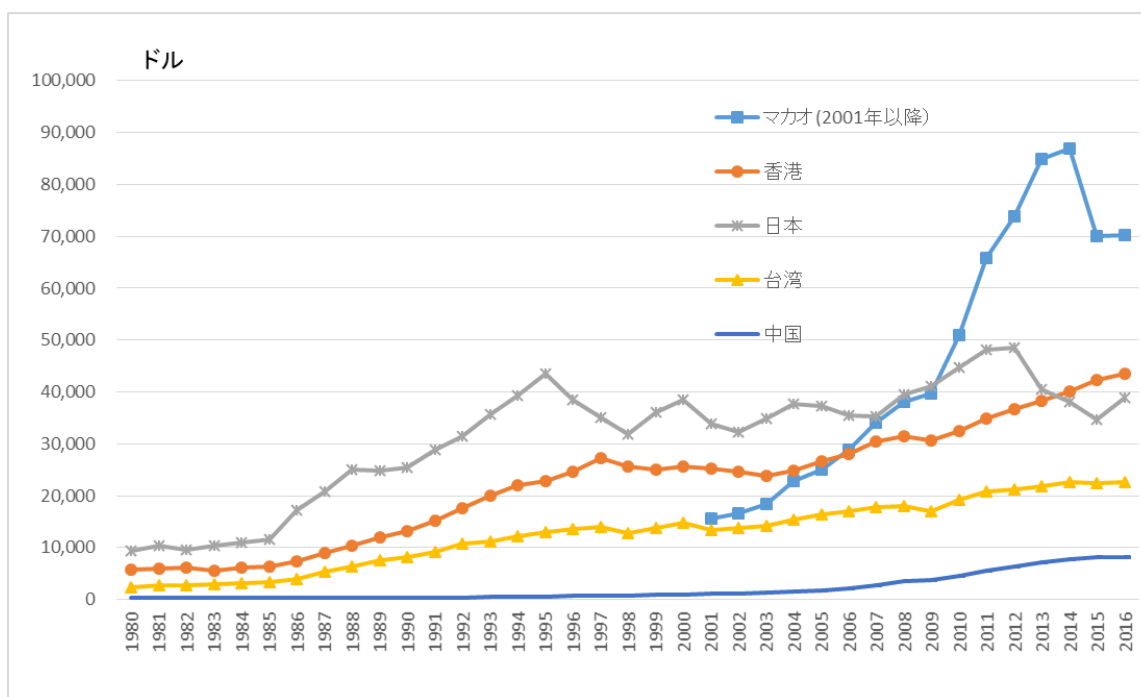


第4図 日本における1人当たり肉消費量の動向

資料：農林水産省「食料需給表（2017年度）」。

3. 香港, マカオ, 中国の食料消費パターン

次に台湾と同じ漢民族が生活する香港, マカオ, 中国の食料消費を考察する。第5図に1人当たりGDPが示されている。地域により, 経済発展段階に違いがあることがわかる。

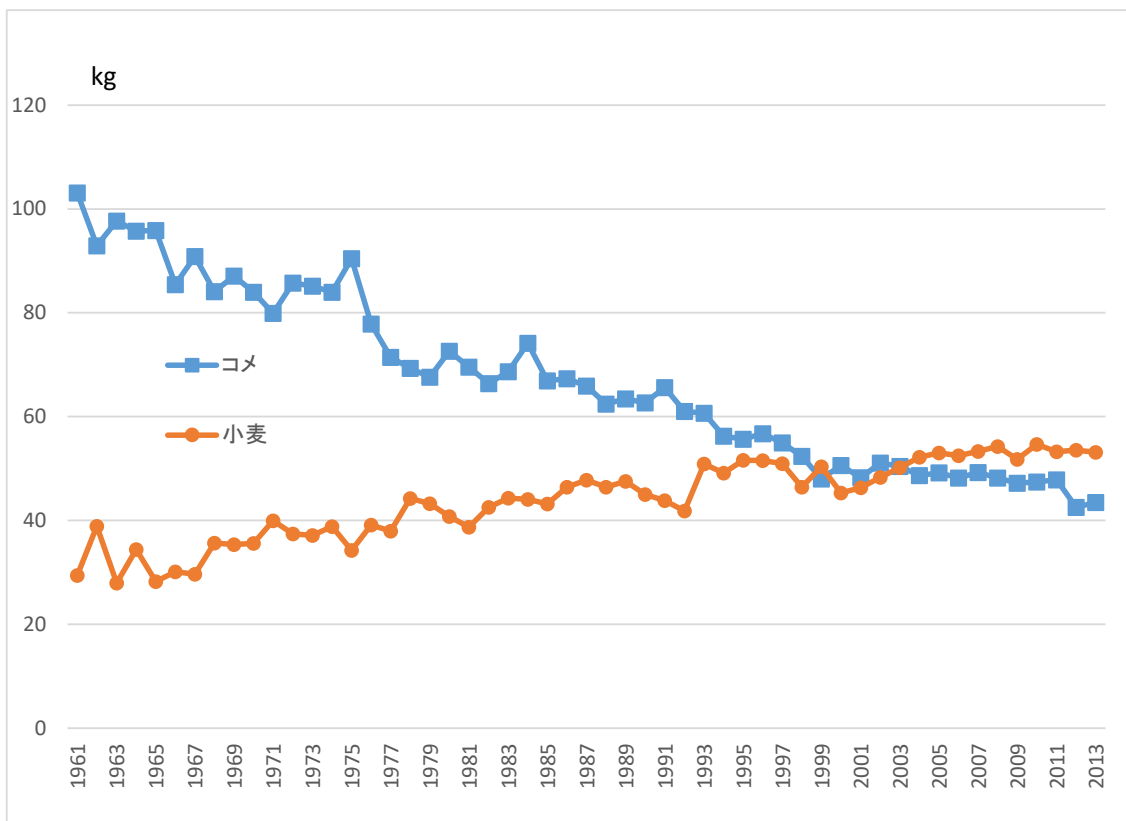


第5図 1人当たりGDP (名目値) の動向

資料：農林水産省「食料需給表 (2017年度)」。

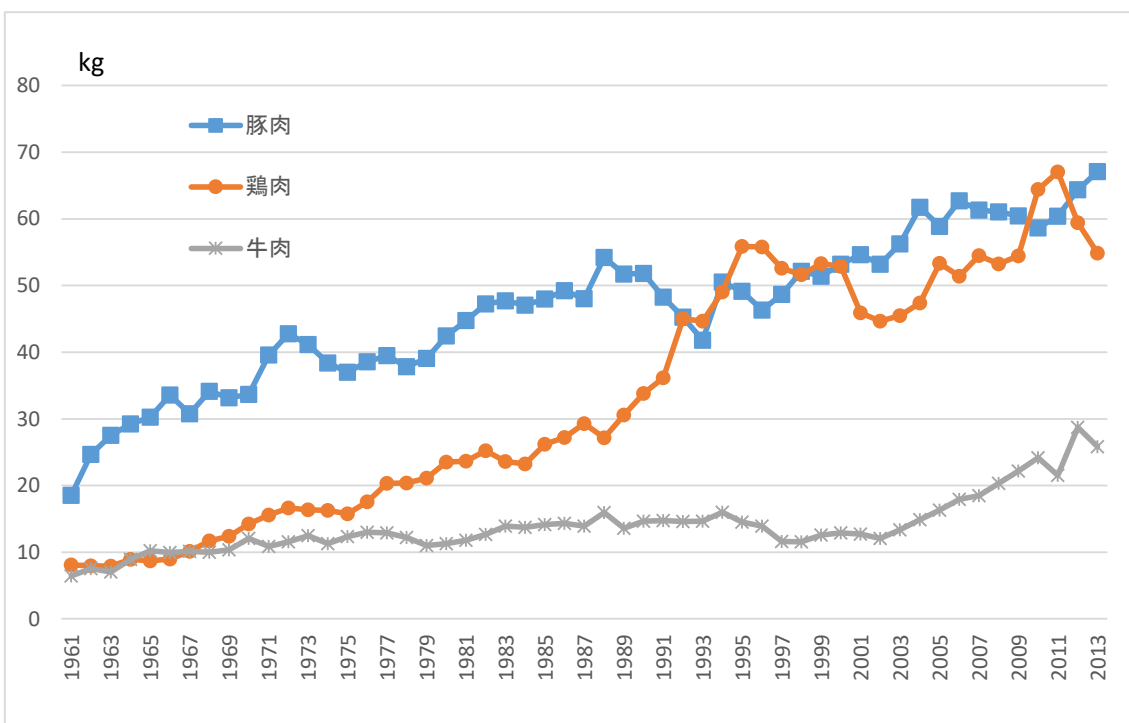
香港, マカオ, 中国の食料消費は台湾と類似していることがわかる。1人当たりコメ消費量であるが, 香港では1961年の100kg以上から2013年には40kg近くまで減少している。マカオも1961年には1人当たりコメ消費量は120kgを超えていたが, 2013年には40kgを割り込むまでに減少している。両地域とも一人当たりコメ消費量の減少は台湾同様に日本よりも顕著である。中国であるが, 近年70~80kgで安定しており, いまだ減少の兆しはみられない。1人当たり小麦消費量は, 香港は30~60kgで推移している。マカオも30~60kgである。中国はかなり多く近年は60kg以上である。

次に1人当たり食肉消費量をみる。香港, マカオ, 中国ともに豚肉消費量が多い。香港, マカオともに2013年は60kgを超えており, 中国も着実に増加しており, 40kgに迫ろうとしている。鶏肉消費量は香港では豚肉を追うように増加しており, 台湾と似ている。マカオも近年は30kgを超えており, 20kg未満の日本よりも相当多いといえよう。中国は20kgに達していないが, 着実に増加している。



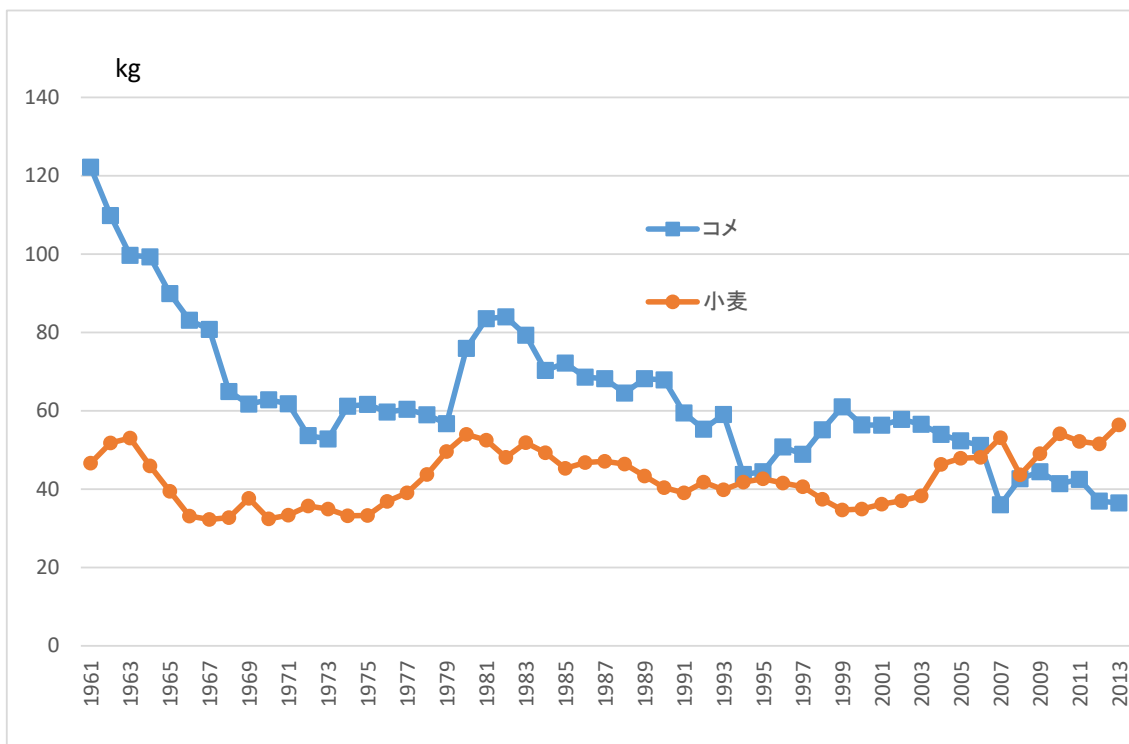
第6図 香港の1人当たりコメ・小麦消費量の動向

資料：コメは行政院農業委員会『農業統計要覧』，小麦は「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。



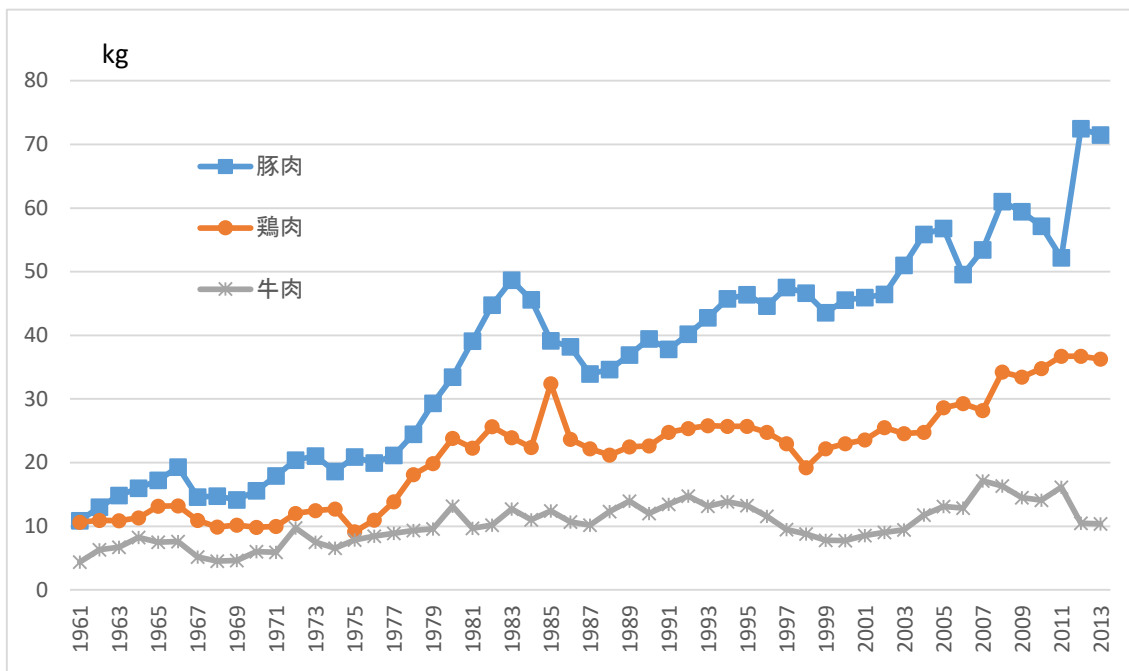
第7図 香港の1人当たり肉消費量の動向

資料：「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。



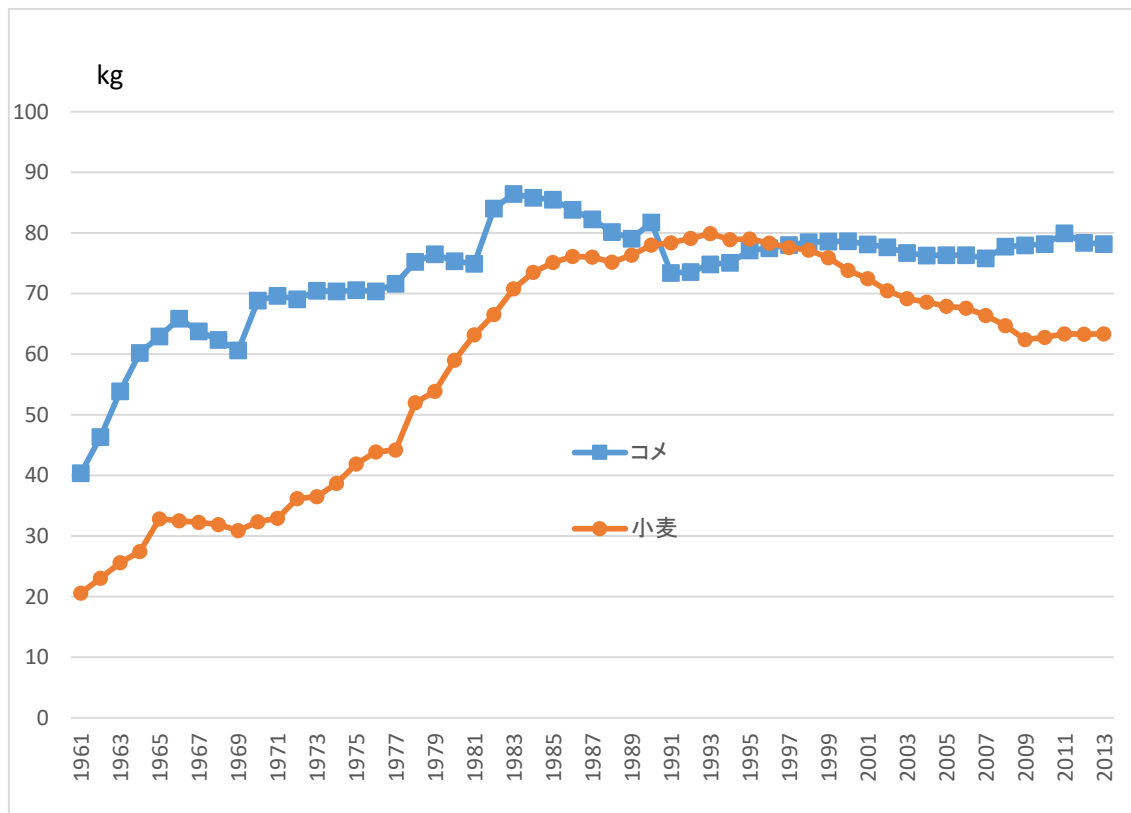
第8図 マカオの1人当たりコメ・小麦消費量の動向

資料：コメは行政院農業委員会『農業統計要覧』, 小麦は「FAOSTAT」(2019年11月19日ダウンロード)。



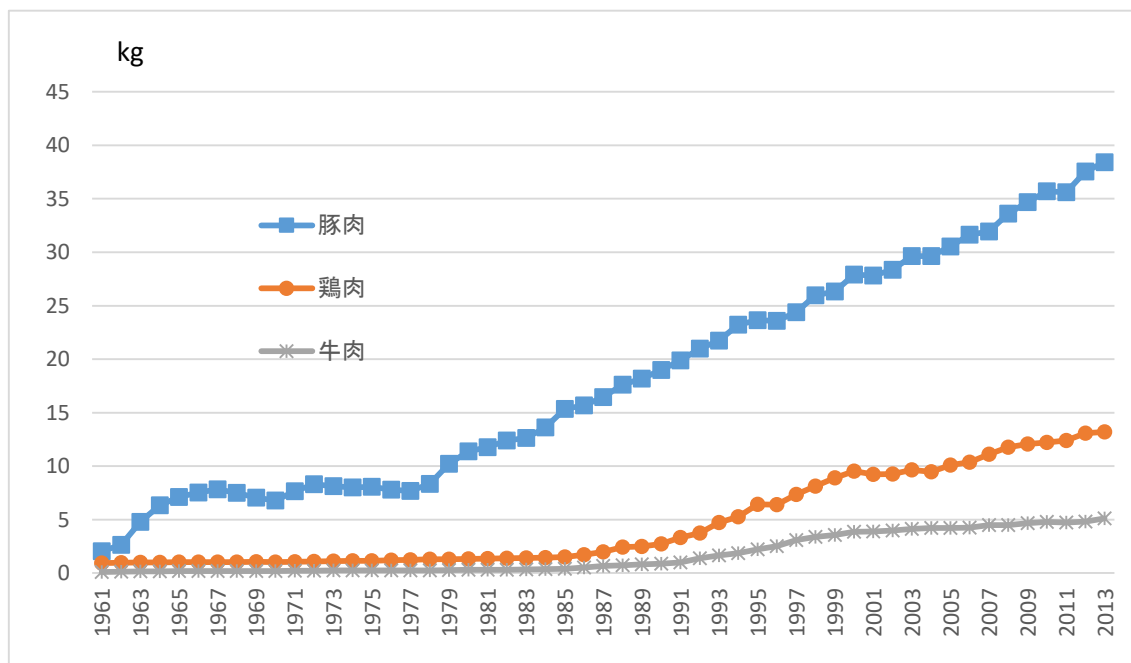
第9図 マカオの1人当たり肉消費量の動向

資料：「FAOSTAT」(2019年11月19日ダウンロード)。



第10図 中国の1人当たりコメ・小麦消費量の動向

資料：コメは行政院農業委員会『農業統計要覧』，小麦は「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。



第11図 中国の1人当たり肉消費量の動向

資料：「FAOSTAT」（2019年11月19日ダウンロード）。

4. 中国の豚肉・鶏肉消費量についての試算

ここでは、中国の豚肉と鶏肉の消費量の増加による、世界全体の消費量の増加を試算した。ただし生産拡大に伴う土地資源の制約や、需要拡大に伴う飼料価格の上昇、需要拡大に必要な所得上昇の可能性など、様々な条件をすべて無視した単純な試算である。第1表に、中国の1人当たり消費量が、台湾の水準となった場合、香港の水準となった場合、マカオの水準となった場合の三つのケースの試算結果を示した。中国全体の消費量の試算値は、現在の人口に、それぞれのケースの1人当たり消費量を乗じて求めた。また世界の消費量の試算値は、現在の世界消費量のうちの中国の消費量を、それぞれのケースの試算値と置きかえて求めた。

第1表 中国と世界の豚肉、鶏肉消費量の試算

シナリオ	地域	項目	単位	豚肉	鶏肉
現在	中国	1人当たり消費量	kg	38	13
		消費量	1000ton	53,268	18,285
	世界	消費量	1000ton	112,547	126,479
台湾の消費量になった場合	中国	1人当たり消費量	kg	39	32
		消費量	1000ton	54,571	44,507
		消費量増加率	%	2	143
	世界	消費量	1000ton	113,850	152,701
		消費量増加率	%	1	21
香港の消費量になった場合	中国	1人当たり消費量	kg	67	55
		消費量	1000ton	93,021	75,994
		消費量増加率	%	75	316
	世界	消費量	1000ton	152,300	184,188
		消費量増加率	%	35	46
マカオの消費量になった場合	中国	1人当たり消費量	kg	71	36
		消費量	1000ton	99,079	50,228
		消費量増加率	%	86	175
	世界	消費量	1000ton	158,358	158,422
		消費量増加率	%	41	25

資料：FAOSTATより筆者計算。

(1) 台湾の消費水準に基づく試算

現在(2013年)の中国の1人当たり消費量は豚肉38kg、鶏肉13kgであり、総消費量は豚肉5,326万8千トン、鶏肉1,828万5千トンである。世界の消費量は豚肉1億1,254万7千トン、鶏肉1億2,647万9千トンである。

中国の1人当たり豚肉消費量が39kg、鶏肉消費量が32kgに増加したとすると、総消

費量は豚肉で 5,457 万 1 千トン、鶏肉で 4,450 万 7 千トンにそれぞれ増加し、増加率は豚肉で 2%、鶏肉で 143%となると試算される。この消費量の試算値を現在の中国の消費量に置きかえると、世界全体では、豚肉は 1 億 1,385 トン、鶏肉は 1 億 5,270 万 1 千トンに増加することになる。増加率は豚肉 1%、鶏肉 21%である。

(2) 香港の消費水準に基づく試算

次に、中国の 1 人当たり豚肉消費量が現在の香港の水準である 67 kg、鶏肉消費量が同じく 55 kg にそれぞれ増加したとすると、中国の総消費量は、豚肉が 9,302 万 1 千トン、鶏肉が 7,599 万 4 千トンにそれぞれ増加すると試算される。増加率は豚肉 75%、鶏肉 316%である。そして世界全体の消費量は豚肉が 1 億 5,230 万トン、鶏肉が 1 億 8,418 万 8 千トンに増加することになる。増加率は豚肉 35%、鶏肉 46%である。

(3) マカオの消費水準に基づく試算

同じく、中国の 1 人当たり消費量がマカオの水準である豚肉 71 kg、鶏肉 36 kg に増加したとすると、中国の総消費量は豚肉が 9,907 万 9 千トン、鶏肉が 5,022 万 8 千トンへとそれぞれ増加する。増加率は豚肉 86%、鶏肉 175%である。そして世界全体の消費量は豚肉が 1 億 5,835 万 8 千トン、鶏肉が 1 億 5,842 万 2 千トンに増加すると試算される。増加率は豚肉 41%、鶏肉 25%である。

5. おわりに

本稿では、台湾の穀物（コメ、小麦）消費量と食肉消費量の推移を、日本、香港、マカオ、中国と比較し、類似性を持つことを確認した。それは、経済成長とともにコメ消費が急速に減少してゆき、一方、豚肉の消費が拡大し、続いて鶏肉消費が増加するというものである。中国では豚肉消費量は長期にわたって増加傾向にあるが、コメの消費量はいまだ減少傾向にはない。

続いて、将来の中国の 1 人当たりの食肉消費水準が①台湾の水準まで増加、②香港の水準まで増加、③マカオの水準まで増加の三つのケースについて、中国の消費量と世界の消費量の試算を行った。上記三つのケースのうち、例えば②の中国の 1 人当たり消費量が香港の水準まで増加するとしたケースでは、世界の豚肉消費量は 35%、鶏肉消費量は 46%増加することが示された。

[引用文献]

【日本語文献】

農林水産省「食料需給表（2017 年度）」。

【外国語文献】

行政院農業委員会『農業統計要覧』（各年盤）。

FAOSTAT (<http://www.fao.org/faostat/en/#data/FBSH>)。